

## 高校英語の勉強のしかた

英語科 興梠万平

### 0. そもそも英語の勉強が手につかない人へ ～まずは「辞書」と「文法書」を使おう～

先日「単語がわからないから予習ができない。文法がわからないから予習ができない。」ということを書いてきた生徒がいました。私が「辞書や文法書を見たの？」と聞いたところ「いいえ。」という言葉が返ってきたので私は思わず「それは『できない』じゃなくて『やらない』だけじゃないの。」ときりかえしてしまいました。

皆さんはおそらく辞書や文法書を持っているはずです。これらを使わずに予習ができるなら、あなたはもう立派な英語マスターです。逆に、辞書や文法書無しでは普通は予習ができないということです。また、どうしても時間的に予習ができなかったとしても、授業であてられた時、その場に辞書があれば単語くらいは答えられるはずではありませんか？辞書も文法書も用意せずに英語ができるようになるわけありません。

いきなり「テストで〇〇点以上取れ！」などと厳しいことは言いません。まずは英語を学ぼうとしてみましょう。そのためには、辞書と文法書は必須です。私は、本当に「英語ができない」とは、「英語を学ぼうとした人」がはじめて言える言葉なのだと思います。これを読んでも自分は「できない」という人は、学習方法に問題がありそうなので再考しましょう。しかし、まだスタートラインにすら立っていない人は少なくないのではないのでしょうか。辞書の読み方や文法書の活用法がわからない生徒は、私のところまで聞きに来れば教えます。一緒に英語の勉強、始めませんか？

### 1. 定期考査はまあまあだが模試で点数が取れない人へ ～模試の有効活用法～

「模試で点が取れない・・・」という人の多くは、おそらく模試は範囲が決まっておらず、対策の仕方がわからずに臨んでしまうからでしょう。そんなあなたは、英語における自分の弱点をまず発見することが重要です。具体的には、文法の総合問題（ネクステ）などをやりこむことです。やり方は、

- ① 数ページ解く（その際、「確信の持てなかった問題すべて」にチェックを付けておく。）
- ② 答え合わせをする（間違えた問題にもチェックをいれる）
- ③ 「確信の持てなかった問題（合っても間違えてても関係なしに）」と「間違えた問題」を文法書等で確認・復習し、ノートにまとめる。
- ④ ①～③を、一つもチェックがつかなくなるまで繰り返す（チェックのついていない問題も繰り返し解くと定着度がかなり上がります）。終わったら先に進む。

この方法は、模試を受ける際にも使えます。模試はただ志望校の判定を見るためのものではありません。本番を想定して作られたありがたい総合問題なのです。これを利用しない手は無いです。解きながら問題にチェックを入れ、終わったら確認&復習。これを続けると、自分の弱点がわかってきます（苦手な分野は何回もチェックが入るの

で自分で気づく)。後は自分の苦手分野を文法書や分野別問題集で重点的に学習すればいいのです。そして模試の前にはその自分の苦手分野の解説ばかりが詰まった夢のようなノートを確認すれば大丈夫！まずは問題を解いてみましょう！

## 2. 英作文で悩んでいる人へ ～ようは減点されなければいいだけ～

英作文が入試に課されている人は少ないかもしれませんが、だからこそ、実際に英作文を書く人は情報がほしいはずです。ここで少し紹介しましょう。英作文を書く上で陥りがちなことは「難しい文章でかっこよく書かなければならない」と意気込んでしまうことです。そのため、もったいないミスなどを犯してしまいます。問題に「〇〇語以上」とか「〇〇〇という表現を用いて」などと言った指定があれば当然それは守らなければなりません。しかし逆に言うと、それさえ守っていれば他はどんな表現を用いても問題ないということです。難しく書く必要はまったくありません。難しい文法や単語は、本当に自信のある時でないと、逆に減点されてしまうリスクが高まってしまいます。

例えば、「理解が困難な英文を読解するために、我々は辞書を使う。」という日本語を英語にしたいとき、(語数制限なし)

① We use dictionaries to comprehend the meaning of the sentence which was written in English and which is difficult to understand.

② We use a dictionary to understand a difficult English sentence.

①は確かに関係詞や難しい単語を使っていますが、スペルが間違えていたり、時制がおかしかったりするので、数点は減点されてしまうでしょう。しかし②では簡単な英語で、しかも短いにもかかわらず、減点要素がありそうではありません。と言うよりそもそも短い方が減点されにくいのは当たり前ですね。結果的に②の方が点数が高くなるのが実際あるのです。

## 3. リスニング力を上げたい人へ ～実は音読は有効な練習法～

「リスニングが苦手！」という人も少なくないはず。とにかく英語を聞いて練習するのももちろん有効な方法です。しかし少し視点を変えて、音読の練習もしてみてください。CDのまねをして音読練習し、英文がスムーズに読めるようになると、例えば省略されやすい単語(文中の that や it) や、結合しやすい表現「like it(ライクイット＝ライキット)」などが自分でわかるようになってきます。「スムーズに読める」≡「スムーズな英語の音声を聞ける」ということなのです。そして、音読の際は「本文の意味を考えながら読む」練習をしましょう。これはもちろん、「意味を考えながら英文を聞く」練習にもなります。さらにこれを教科書で行えば、定期考査対策にもなり、まさに一石二鳥！街中で英文を見かけたら、とりあえず読んでみよう。そして街中で英語が聞こえてきたらとりあえず耳を傾けてみよう。リスニングは、聞けるようになるととても楽しい分野なのです！

**それぞれにあった学習法で着実に実力を付けよう！英語は急にできるようにはなりません！毎日少しずつ積み重ねていきましょう！**